









ラ 且ツカ 各國此ノ交際 煩錯綜ニ日ヨ  
リ 甚クハ後 此際 常ニ免ルザルヲ失レ 賤貨增加ス  
レバ 則チ政府ノ需要又加シ 各國ノ交際モ亦獨リ 歐洲ニ止マ  
ズ シテ更ニ他ノ半球諸國ニ及ビ 猶チ一層ノ煩煩アレテ 免レ  
ザルモノナリ 畢竟交際ノ事タレバ 人民ニ於テ 肝要措クベカラ  
ザレト 常ニ一層ノ太甚キヲ加ヘ而シテ 此車ヲ結局千緒万端ノ筆論  
ヲ創起シ 多少ノ糜賤連年ノ兵乱ヲ釀ス ト又一層ノ太甚キヲ加  
フルモノナレバナシ

故ニ一層ノ知能ヲ發揮シ 以テ 賤貨ノ存在スル所ヲ 察見セント  
スルハ 自然ノ理勢ニテ 是レ他ナシ 所在各處苟モ 賤貨ノ在ル  
所ニ 比キ何等ノ物ヲ採取シ 以テ 其國ノ金庫ヲ盈テント 欲スレ  
バ 過キザルニ 於是乎 所謂 物産稅ナリ 海關稅ナリ 容易ニ其新  
規 收納スルキ 源流タルトテ 察見シ 而シテ 其額數ノ金庫ニ入ルヤ

或ハ商品ノ量數堆積スルニ 由リ 交易ノ道能ク行ハレ 該國  
輸入ノ外物其數鉅多ナレニ 因リ 自カラ 増加スルモノナリ 但シ  
此事ニ付キ 尤モ注シタル所ハ 是等國庫ニ 收入スル所ハ 專シ 貨  
幣ノ量數如何ニ在リ 多クハ貨幣ノ額數ヲシテ 且ツ 此際右等諸稅  
ヲ 設置スルニハ 未ク必シモ 一國即チ 代議士ノ 裁旨ヲ待タザル  
ノ 簡便ヲ占ムルヤ 逐ニ 左ノ二項ニ於ケル 穿鑿ヲシテ 第一若シ  
ラシムルニ 至リ 即チ 凡ソ 人民ノ 内何人カ 果シテ 是等諸稅ヲ 最終  
ニ 拂フモノタルカ 即チ 間稅ハ之ヲ 清及ビ 是等租稅ノ 設置ハ 果  
シテ 正理ト 公平トニ 出テ タルヤ 否ヤノ 事是レナリ  
抑モ 貨幣ノ 最モ 著ルシク 發現スルハ 常ニ 其活潑ナル 通用ノ際  
ニ 於テ スルヤ 是レ 即チ 流通ノ 理ニシテ 文 理 賤官吏タルモノ  
ハ 流通中ノ 儀 因リ 便ニ 乘シ 多少ノ 貨幣ニシテ 金庫ニ 堆積  
セ 悟 隨テ 所在各處 苟モ 貨幣ハ 其代物 即チ 賤貨



類  
問  
行  
贈遺等至  
乘シ各人ノ手ニ通用ヤレ貨幣ノ若干ヲシテ國庫ニ流入  
至テハ若シ地方ニ依リ貨幣發現セスレテ其實存在スルニ相違  
無シト見込ムルハ更ニ恐嚇ノ術ヲ以テ之ヲ得シト企ツ  
至レリ苟モ此目的アルハ凡百ノ所有品若シクハ收入  
租稅アラザルハ無シ而シテ此舉ヲシテ妨碍無カ  
遂ニ左ノ例ヲ創定スルヲ以テ便法トスルニ至レテ即チ人民  
内其承諾ヲ要スルモノ即チ貴族僧侶府民等ニシテ其代議士  
等諸人モ亦免除セラレ而シテ農民ヲ其  
負荷ニ任スルニ下文ニ於テ詳知スベシハ一切ノ租稅免  
除シ其此舉ニ因リ何事無ク破テ其承諾ヲ得遂ニ自餘人民ノ習

慣ニ因リ異議ムル推理無キ  
農民ヲ連セテ都テ出稅ニ依從セシムルヲ得ントス  
事是ナリ蓋シテ重立タル荷擔即チ政府ノ費用ヲ重メハ  
常ニ是等人民ニ存在シ右等代議士ニ於テ其政府ノ費用到底達  
クベカラザルト考定スルハ動モスレバ勝手ニ承諾ヲ与ヘ是  
等諸人ノ免除セザレハ問ハ永ク自餘臣民ヲシテ之レ租稅  
納メシムルトナレリ於是乎最下等社會ノ人ト雖且屢々一般  
ノ租稅軍事ノ勤務并產物若シクハ金錢ノ徵求等ニ於ケル責任  
任ヲ以テ重ク其身ニ纏フモ一方ニ於テハ其人民ノ代議士タル  
者ハ却テ一般ノ租賦ヲ免ルノ自由ヲ得タリトス  
此狀情ナルガ故ニ且賤ノ術ハ全ク何等ノ利源タリトモ苟モ其  
國用ヲ以テ利益ヲ收レ可ク發見スルノ伶俐ナル

出テ



見... 國人民ニ於テ諛術ヲ全シ軍ノ賤シク且ツ惡ムベキモノト觀察  
止ムベシ且ツ租稅ノ制タル苟モ國中人民ノ利害如何  
其賦課必ス應サ苛酷ニ出テ且ツ其徵收比年絶ヘザルニ至  
ベシ此二件ハ即チ常備兵制ノ起ルニ因テ常ニ避クベカラス  
所 係レリ當時國家多ク兵備ヲ要ス此二者弊害起ルヲ知シ  
國ノ歲入トナルベキ原素ヲ必集ムルニ付キ新ハ制度ニ悉  
キトハ假令昔時前段不法ノ事盛ニ行ハルノ際ニ在ラモ  
ラクハ識者ノ看ル所ナルベシ而シテ此軍未タ實施セザル前  
ニ當テ豈ニ更ニ理賊上ニ於テ良ノ方法ヲ施設スルノ道見  
ラザル

如ク

シテ即チ此理賊上法ノ惡キニ遠シ其國人ヲシテ更ニ此方法  
ヲ立處スルノ道ニ適スルニ非ザレバ則チ不  
可ナル所ナラ思ハルニ至ラシメタリ  
一國ノ歲入ヲ管理スルモノ、採用セシ所ノ方法ハ亂造之、分  
拆シ隨テ其臣民ニ害アルハ勿論又其君主ニ於テモ之レニ関  
スルヲ無キヤ否ヤヲ發見スルトニ苦心セシニ遂ニ理賊上ニ本  
タル斯ル處分ハ到底公平ト謂フベカラス且ツ堅牢ナル設立ニ  
其ツカザルヲ以テノ故ニ却テ其國ノ歲入ヲ引出ス所ノ利源ヲ  
枯乾ニ歸シ且ツ終ニ崩壞ニ至ラシムルヲ了解シ又  
未タ必シモ其因ヲ入ル所ノ利源ヲ枯乾スルヲ無クシテ單一  
方法 則 同一ノ額數ヲ徵集スルヲ得而シテ利源ハ  
始終產出  
テ同ナリ歲入



九七  
需要ノ宜シ在  
宜シク之レニ充ツルベキコトノ必要ナルヤ否ヤトノ事ニ至  
固ヨリ爭論ヲ待タズシテ明カナルモノトシ更ニ左ノ實見  
實見スルコトヲ企テタリ

其一 政府ノ施設ヲ以テ國人ヲ富マストニ從事シ及ビ國人  
ヲシテ後來同一ノ金額ヲ拂フニ付キ貧困缺乏ノ患無  
テ益スル其地但ヨ進マシムルノ方法果シテ如何

其二 凡ソ政府ノ需要ヲ充ツルニ其出金者ナラテ過重困  
難也且ツ之レテ更ニ資本ヲ募集シ因テ以テ毎年其  
口得ル下益多カラシムルニ充分ノ餘カアラシメ及ビ  
非常ノ事故際シテモ其國ノ歳入ヲ増加スルコト  
得ルコト如何

一箇 國ノ諸雜費ニ在收充借而國人ノ内獨  
産ニ應シルニ課税ニテ出金者ヲシテ各々其賦  
法里テ如何

經濟學ノ真主義漸ク擴張シ而シテ理賤ノ術又真與術トナレリ  
如ハシ爾來此學術ヲ研究スルハ一ニ此精神ヲ以テ佛國ニ於  
テハスリールゴットニ氏其他ノ如キ種々ナル隨筆ヲ以テ之  
レガ記載ニ從事シ而シテ其著述者ハ則チヴオーバン氏セロトヤ  
ルタイシス書名ニシテ王家ノセントピルレ氏等是レナリ繼  
續ニ經濟學ナルモノケニエリ其門弟起リテ之レガ著述ニ  
且ツ更ニ國法ニ論及セリ其他日耳曼ニ於テハセツケン  
ル氏ロエン氏英國ニテハモーチメヤー氏  
利ニテノノ氏其他

且ツ更ニ國法ニ論及セリ其他日耳曼ニ於テハセツケン  
ル氏ロエン氏英國ニテハモーチメヤー氏  
利ニテノノ氏其他



ル康等ノ穿鑿ハ實ニ理賤ノ學術ニ於テ更ニ堅  
一基礎ヲ立定シ所謂國中一般ノ賤債タル利源ハ一層完全  
百鍊ニ於テ之ヲ分析シ即チ凡百ノ租稅ハ最後果シテ何人  
ノ負擔ヲ卸却シ且ツ之ヲシテ永久ニ行ハレシムルヲ得ベキ  
等ノ如キ自カラ明了ニ歸シ理勢ノ然ラシムル所凡ソ租稅  
ノ如キ自カラ明了ニ歸シ理勢ノ然ラシムル所凡ソ租稅  
ハ適正ナルヲ以テ容易ニ發見スルヲトナレリ  
新ニ分析ヲ學則上ニ施シタルモノハ實ニアダム・スミス氏ノ  
首トス曰ク著述ニ於テハ  
政治上ニ用ヤル一般ノ學術ヲ改正スル  
義ニナルモノハ  
イナラズ人々ノ學行ニ於テ必要ナル關係アルモノ  
ニ於テハ  
イナラズ人々ノ學行ニ於テ必要ナル關係アルモノ  
ニ於テハ

理論

勿論スミス氏ノ一般若  
氏要之ヲ論人ノ新鮮ノ穿鑿ニ涉リ而ノ新鮮ノ意見ヲ發  
シメ他ノ舊說ヲ墨守タルノ徒ト雖氏又其旨趣ニ  
苟モ新說ヲ要スルニ至ルハ同氏ノ功居多ナリ  
氏ヲ始メ其繼承者即チ英ノトールレンス氏リカアード  
氏佛ノセイ氏伊太利ノシスモンデイ氏日耳曼ノクラウス  
セイ氏イッソコッソリデン并其他ノ諸氏ニ至テハ實ニ政治  
上ニ於テ學術ヲシテ新クニ興起セシメ是レ其勢力既ニ盛大  
ナルヲ以テ又方サニ將來理財學ノ研究上ニ於テ  
添テムヤ必セ

條要ノ西  
而シテ租稅

經濟學ノ研究上ニ於テ學術



中一般之貨物論説

特

ト大ニ霄壤ノ異アルヲ見ルニ足レリ故ニ今ノ時ニ當リ可

クリトモ苟モ理賤ニ関涉シタル事件ヲ能ク判断セシ

徒ハ宜シク現在進歩セル所ノ經濟學上ニ於テ精細ノ學知無

クンバアルヘカラス畢竟其最上至大ノ主義ヲ具ヘ結局理賤上

ノ諸取扱ニ於テ之レガ批准ヲ与フルモノハ獨リ此學アル

ト云フモハ都テ經濟學中ニ存在スレバナリ要之理賤學

固ヨリ一種ノ學ノ構成シ全

一國

一國ノ經濟學ト區別アリト雖其實質  
而ノ理則  
救人民一般ノ

如8

固知スル在

般ノ時ニ於テ論

テ必要ト為スヘ

ストリニカ

基礎トナルベキ原素

故リ然レバ理賤

ヲ引證スルハ全ク該學ノ自便ヲ謀ル為メニシタル所ノ主義

須カラク理賤學ニ於テ更ニ一層明白ノ説明ヲ要シ以テ是等生

テ適用スルニ諸國各多少ノ關係アリ因テ以テ現ニ存スル所

情等ヲ指ス如何ニ於テ稍異同無キ能ハザル所以ヲ詳

是レ他無シ理賤學ハ其主旨全ク實際ノ學術タルニ過

多少ノ著述アリテ或ハ微妙ノ分析表出ニ係

經



以予觀之其大半特トニ訪學ノ自便ノ謀ルニ  
キ  
規則ニ施シ以テ經濟學ノ一般主義ヲ說示シタリ勿論此主義  
「イ」氏其他ノ有名記者既ニ其大篇長作ニ於テ多少發聞  
ル所ニ係レリト雖ニ夫ノ始終職業ニ從事スル人ニシテ此學  
ノ主義ヲ了得セント欲スルノ徒ヲシテ斯ル大部ノ書籍ニ就キ  
因テ以テ學知スル所アラシメントスルニハ想フ應サニ其時間  
無ク又餘暇ナキ所  
予ノ問答說ノ如キハ然ラス凡ノ是  
等就學者ヲ始メ其他諸人ノ能ク順序ヲ踏ミ經濟學  
欲スルニニ引導ノ線路ヲ示シ是等諸人ヲシテ因テ以テ更ニ  
沉思深察スル所ヲ以テ其餘  
全了セシメントシテ企望セリ京  
中如  
走文祭  
分  
ルニ  
於テハ最モ以テ此著  
其政府ノ派出  
シヨ

女9

實ノ判斷  
此書ニ就キ大ニ見ル所  
以テ痲ク感得スル所アリ以テ交際學上從來平々看過セシ所  
事條ニ於テ更ニ意ヲカヘ學習スル所無カルベシガル所以  
ヲ知ラシメバ則チ  
夫レ之レニ如カンヤ

國ノ職業實日

於テ必ス確

是等諸事件ハ必ス應サ







